

2017年に私たちが募集した「くすりで願いがかなったエピソード」。集まったエピソードには、たくさんの喜びや、笑顔、安らぎがありました。ここでは、そんなエピソードの一部をご紹介します。ひとつひとつのエピソードを通じて、今も病氣と闘っている人たちに少しでもエールを贈りたい。エピソードには、そんな想いが込められています。

▶ WEBで他のエピソードも公開中！

新しいくすりで、新しい明日を。

検索



新しいくすりで、新しい明日を。



実際に送られてきたエピソードをもとに構成しています。

苦しみ乗り越え、全国選抜。



※年齢はエピソード応募時のものです。写真はイメージです。

くすりで
願いがかなった
エピソード

苦しみ乗り越え、
全国選抜。

千葉県 S・Tさん 82歳

希望の初孫は、体格に恵まれた男の子でした。

しかし、見かけとは裏腹に、彼は喘息に苦しむ毎日でした。

体育の授業も、夜寝るときも、息苦しさで耐える日々…。

発作が治まるまでの時間が、可哀想でなりませんでした。

「僕の苦しさは誰にもわかってもらえない」と私たち家族に

訴えてきた日もありました。本人はもとより、彼に寄り添う

両親の心労にも胸が痛みました。そのような折に、かつて

喘息であった元スピードスケート選手清水宏保さんの広告に

出会いました。私たちはそれをもとに、ワラにもすがる思いで、

翌日、病院を訪れました。小児科の喘息専門医の診察を受け、

即治療が開始されました。そして早速その日の就寝前に

使用しましたところ、夢にまで見た願いが実現したのです。

安眠と心身の安らぎが訪れ、翌日から孫は別人のように

生き生きと大好きなスポーツができるようになりました。

そして、中学に入ってから、この

治療薬のおかげでバレーボールの

全国選抜合宿の22名の中に選ばれ、

大学生となった現在も、思う存分

スポーツを楽しんでおります。

家族一同に笑顔が戻り、この

素晴らしいおくすりに救われました。

感謝の言葉は尽くせません。

2017年に私たちが募集した「くすりで願いがかなったエピソード」。集まったエピソードには、たくさんの喜びや、笑顔、安らぎがありました。ここでは、そんなエピソードの一部をご紹介します。ひとつひとつのエピソードを通じて、今も病氣と闘っている人たちに少しでもエールを贈りたい。エピソードには、そんな想いが込められています。

▶ WEBで他のエピソードも公開中！

新しいくすりで、新しい明日を。

検索



新しいくすりで、新しい明日を。



実際に送られてきたエピソードをもとに構成しています。

まさかの、スクーターデビュー。



※年齢はエピソード応募時のものです。写真はイメージです。

くすりで
願いがかなった
エピソード

まさかの、スクーターデビュー。

千葉県 E・Yさん 45歳

私はリウマチ6年生です。

発症当初は身体中の関節が痛く、箸で食事をするのも

大変な時期がありました。でも、処方されたくすりのおかげで、

リウマチも2年を過ぎると寛解になりました。

リウマチを発症する前からファミレスで働いていた私は

今も働き続けることができています。

寛解になったので晩年の両親のお世話をすることができました。

去年、父も亡くなり両親のお世話を卒業した私は、

今ボランティア活動を始め、ビリヤード、卓球、写経を楽しみ、

なんと言っても45才でスクーターデビューをしました。

スクーターがこんなに楽しいなんて思いませんでした。

6年前のリウマチと診断されたあの日、

帰りの車中で涙が止まりませんでした。

母もリウマチだったので、ああ私も身体中が痛くなり、

不自由な生活が始まるのだと

思いました。でもまさか6年後、

こんなに充実した人生が送れる

とは想像もしませんでした。

これからも主治医の指導をよく

聞き、自分のため、そして

少しでも人の役に立てるような

人生を送りたいです。

2017年に私たちが募集した「くすりで願いがかなったエピソード」。集まったエピソードには、たくさんの喜びや、笑顔、安らぎがありました。ここでは、そんなエピソードの一部をご紹介します。ひとつひとつのエピソードを通じて、今も病氣と闘っている人たちに少しでもエールを贈りたい。エピソードには、そんな想いが込められています。

▶ WEBで他のエピソードも公開中！

新しいくすりで、新しい明日を。

検索



新しいくすりで、新しい明日を。



実際に送られてきたエピソードをもとに構成しています。

再開できた、フラダンス。



※年齢はエピソード応募時のものです。写真はイメージです。

くすりで
願いがかなった
エピソード

再開できた、フラダンス。

福岡県 M・Mさん 58歳

「はい、そこでターン。」と大好きなフラダンスを踊っているとき、

天井が回り、同時に「ブーツ。」と耳の奥で音がして、

左耳からの音が遮断されました。突発性難聴でした。

その後、治療薬のお陰で聴力は無事回復し、ひと安心したのも

束の間、めまいでまっすぐに歩けず、つねに耳も閉塞感が伴い、

毎日不安感が続きました。メニエル病の併発でした。

約束していた孫の運動会にも行けず、仕事もジムにも行けず、

ずっと体がふわふわした日々でした。

でも、メニエル治療薬内服開始後、次第に、カレンダーに

体調のよかった日につける丸印が多くなってきました。

おかげで回転を控えながらではありますが、

フラダンスも再開できました。

もちろん孫との嬉しい旅行も楽しんでいます。

今では、絵手紙を習ったり、久し振りにピアノを弾いたり、

思い立ったらその日に旅行したり、

辛くて不安だった日が

遠く感じられます。現在まだ

完治は難しいとされていますが、

上手に付き合ひながら、

毎日を楽しみます。

今年は運動会に行けるから、

待っててね。